



TITLE:

# マーシャル島民に知られた星座及び星の傳統

AUTHOR(S):

佐藤, 興三

---

CITATION:

佐藤, 興三. マーシャル島民に知られた星座及び星の傳統. 天界 1931, 11(128): 525-533

ISSUE DATE:

1931-11-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/161736>

RIGHT:

## マーシャル島民に知られた星座及び星の傳統

佐 藤 興 三

此の<sub>L</sub>マーシャル島民に知られた星座及星の傳統<sup>1</sup>は大正十四年六月發行の<sub>L</sub>科學<sup>2</sup>誌上に海軍大佐松岡靜雄氏が<sub>L</sub>エルトラント氏（何處の人なるや不明）が苦心の結果調査したるものを<sub>L</sub>海の秘密と星<sup>3</sup>と云ふ見出しで紹介したものであります此れは大部分は原文であります但星座名だけは現今使用されて居るものに小生が訂正したものであります。

### 1. <sub>L</sub>リマンマン<sup>1</sup> (limanman) 小熊座 $\alpha$

<sub>L</sub>リマンマン<sup>1</sup>は<sub>L</sub>よき星<sup>1</sup>と云ふ意である。

此の星は北方にあつて殆ど動くことなく恰も椰子の實を割り出すため地上に植ゑた木片のやうであるから<sub>L</sub>北方の割ぬき棒<sup>1</sup>ともよぶ。マーシャル群島の南のはてなるエボン島からでも見る事が出来る。

### 2. <sub>L</sub>リマンマン・エン・アン・ニンジブ<sup>1</sup> (limanman en-an-ninjib) ケフェウス座 $\gamma$

### 3. <sub>L</sub>ジェメヌーウェ<sup>1</sup> (jemenuwe) 小熊座 $\delta$ $\beta$ $\gamma$

### 4. <sub>L</sub>アーオレエト<sup>1</sup> (aolot) 龍座 $\theta$ $\eta$ $\xi$

### 5. <sub>L</sub>マレ・エオ・アンアーオレエト<sup>1</sup> (mareenan aolot)

龍座18.19星、<sub>L</sub>アーオレエト<sup>1</sup>は魚の名であるその頭なる $\delta$ 星を矛（第18第19星）で差貫いて居る。

### 6. <sub>L</sub>ウェダル・カン<sup>1</sup> (Wadal. kan.) 大熊座 $\alpha$ $\beta$

### 7. <sub>L</sub>ワ・エオ・アン・ヂユムール<sup>1</sup> (Wa. eo an. Dumur)

大熊座  $\gamma$ ,  $\delta$ ,  $\xi$ ,  $\zeta$ ,  $\eta$ ,  $\nu$  は舟、ヂユムールと云ふ神の舟の意（第17参照） $\delta$ ,  $\xi$  は舟の龍骨で  $\gamma$ ,  $\eta$  は兩首尾材である。舟人<sub>L</sub>レグーヂャブエ<sup>1</sup>の説によると同星座の  $\alpha$ ,  $\beta$  星は昔の舟の草束の飾で首尾にかゝつて居るものであると云ふ。

### 8. <sub>L</sub>ケエム、アニジ<sup>1</sup> (Kamanij) 大熊座 $\kappa$ , $\lambda$

### 9. <sub>L</sub>ケエム・アルミジ<sup>1</sup> (Kamarmij) (カムカン kam kan)

大熊座  $\theta$ , k.t. エルトラント氏は説明を與へて居らぬが<sub>L</sub>アニジ<sup>1</sup>は神<sub>L</sub>アルミジ<sup>1</sup>は人<sub>L</sub>カン<sup>1</sup>は複数を示めす語<sub>L</sub>ケエム<sup>1</sup>又は<sub>L</sub>カム<sup>1</sup>は不明である兩者

を總稱して「カム」座とよび「カム」の神「カム」の人と區別するものらしい。

10. 「ウォル、ウエトエン」 (Wor Watoen) 獵犬座  $\alpha$

ウエトエンの岩礁。ウエトエンはアイリンラブラブ島群の「アエレエク」航門にある岩礁の名である。

11. 「レ エ<sup>1</sup>(ra)」  
12. 「アール<sup>1</sup>(ar)」 } レエム。アール(ram, ar)

乙女座  $\alpha$  牧夫座  $\alpha$  これもエルトラント氏の説明を缺いて居るが「レエ<sup>1</sup>」は外陰唇である「アール<sup>1</sup>」は「礁湖<sup>ラグーン</sup>の邊<sup>1</sup>」と云ふ意味で何れも這個の陰語であるらしい。

13. 「ワク、アン、アーリク」 (Vk an, arik)

牧夫座  $\beta, \mu, \iota$  及び北冠座  $\mu$

「アーリク」は新月の意

新月の魚網、新月が西の方に見えると土人は「レーブエル」<sup>1</sup>と云ふ、魚が夥しく群がる外礁に出かけて行く、魚群に入つた舟は魚を逃すことなく一塊にして掬ひ上げ數分の間に舟中に充滿する。

14. 「レエブエル、エオ<sup>1</sup>」 (rabual eo) 蛇遣座 67.68.70 星及び海蛇座  $\delta \epsilon \theta \eta \zeta$

15. 「バゲ、エオ<sup>1</sup>」 (bage eo) 蛇遣座  $\gamma$  及び小犬座  $\alpha$  「バゲ」はナムリクに産する「スボン、ヂルス」<sup>1</sup>と云ふ貝で作た珠<sup>たま</sup>で之れを頸輪に綴るために用ひる銚を「レエブエル」<sup>1</sup>と云ふ。

16. 「ウート、イン、ラトジリク」 (Wut in Latjirik) 北冠座ラトジリクの花輪と云ふ意之れに對してラレブラの花輪(南冠座29参照)と云ふのがある「ラトジリク」は種族の名で「レエリク」<sup>ウート</sup>島列の北方の土人の多數が之れに屬し「ラレブラ」はナムリク島を本據とする種族の名である即ち北方は「ラトジリク」に南方は「ラレブラ」族に屬して居る。

「ラトジリク」族のものは決して一致和合することなく性質輕佻<sup>エオルアンブルエクル</sup>で他據の喉(衆口區々の意ならん)を持つ之れに反して「ラレブラ」族のものはよく一致し一度決定した事を破る様な事はない。

17. 「ヂユムール」 (Dumur) 蝎座  $\alpha, \gamma$

$\alpha$  (アンタレス) 及諸大星の母を「リゲダネル」<sup>1</sup>(カペラ第55参照)とよび、其

の長子は「ヂュムール」で末子は「ジェプロ」(プレイヤデス第47参照)である。リゲダネルの子達が天から降りてアイリシラブラブの島に住む母を訪ねた時兄弟の間に誰でも此島の東にあたる島に早く渡りついたものを星の王にすると云ふ相談が起つた約束が成立したので何れも王位を獲たさに大急ぎで出航の準備をした。老母は先づ長子ヂュムールに同伴を頼んだが彼は母の持物が多くその重さによつて舟足がおそくなることを怖れて辞退した。リゲダネルは年長の息子から順々に頼み廻つたが誰も應ずるものがなく、唯末子のジェプロのみが拒絶せぬばかりでなく、母の七つの道具を携行することをも快諾した。舟が水に下りた時母はジェプロに向つて一つづつ品物を運ぶ様に命じ、何處にどの物を置き、どこに何を取付けると云ふことを詳かに示した。之を終へた後ジェプロは漸く消ぎ出したが、不思議な事には舟はズンズン進んで殆ど權を要せぬほどであつた蓋し母の七つ道具と云ふは其時まで人の知らなかつた帆具であつたのである。

順風に追はれて瞬く間に兄弟の舟を追ひ越しヂュムールに追ひついたが之れを見たヂュムールは長兄の權威を振つてジェプロに舟を明け渡せと命じた。ジェプロは謙々之れに應じたが、母は長子を怨んで一計を案じ、舟を渡す間に帆を支へてゐる柱をぬき取り末子と共に海中に飛び込んだ。ヂュムールは已むなく自分の身體で帆を支へた、ため、彼は遂に僵僕になつた、而して彼が横切つて居る間に母とジェプロは島に泳ぎついて約束の如く王位に即いた。

ヂュムールは其後辛うじて到着はしたが、憤慨の極、再び弱弟を見まいと決心した。是故にプレイヤデス(ジェプロ)が東の空に昇ればアンタレス(ヂュムール)は西に沈むのである。其の曲つた脊をば今もなほ此の三つ星を連ねた線が示して居る。

18. 「ケエージェジェン・ヂュムール」(Kajejen.Dumr) 蝸座  $\theta, \gamma, \zeta, \mu, \varepsilon$  デュムールの胸である。
19. 「コレエク・エオ・アン・ヂムール」(Korok.eo an. Dumur.) 蝸座  $c, \beta, \delta, \alpha, p$  デュムールの頭髮此星群は往時の男子の髪の毛のゆひ様に似て居る所から此の名を得た。

20. **レエブ・エオ<sup>ㄱ</sup>** (rab. eo) 銀河中蛇遺座  $\theta$  に近き黒點
21. **マレ・エオ・アン・ジウムール<sup>ㄱ</sup>** (Mare. eoan Dumur) 蛇遺座  $\theta$  及第36星  
**レエブ・エオ<sup>ㄱ</sup>**は省毒と云はるゝ鰻の事である**マレ<sup>ㄱ</sup>**は矛でこの鰻はジウムールの矛で刺殺される。
22. **レメジリクリク<sup>ㄱ</sup>** (lemejikrik) 蝸座 v.  $\mu$  c  
 眼の小さいものと云ふ義、二つの小さい星が**パンダヌス<sup>ㄱ</sup>**の實の頂部のしぼんだ毬になぞらへらる。 **パンダヌス<sup>ㄱ</sup>**の實を分配する時下部及び中央の毬は管長及父老に與へられ、普通の民は中央より上及上端のもので満足せねばならぬ、分配の際誰か一人もれた者が有て配與を申出た時 **レメジリクリク**、ラーニレンマク<sup>ㄱ</sup> (眼の小さい奴に其のしぼんだマクをやる) と云ふ返事があれば其の者は侮辱された事となる、婉曲には**アン・ウオト**、マク<sup>ㄱ</sup> (彼にはマクを與ふる) と云ふ例である。
23. **アウインウオレエン・ラン<sup>ㄱ</sup>** (auinwolan lan) 矢座  $\epsilon$  及天秤座  $\beta$   
 天の横梁。夏季此の兩星は天空を東西にわかつ。兩星を連結して南極に伸ばした線は北方に於ては北極星に連り南方にては海蛇座を貫く故に南北水平線の曇た時も之によつて南極の方位を知る事が出来る。
24. **ウジェレエ<sup>ㄱ</sup>** (uela) セントリー座  $\gamma, \mu, \varphi$   
 帆。マーシャル島の帆の様に三角形をなすので此の稱呼がある。或舟乗は牡牛座の大三角形をも**ウジェレエ<sup>ㄱ</sup>**とよぶ。其の下方の角は**アルデバラ<sup>ㄱ</sup>**であるセントリー座の出はジウムールの従者とよばるゝ。
25. **レエボオル<sup>ㄱ</sup>** セントリー座 (labool.)  $\kappa$
26. **アエル・イム・コツバン<sup>ㄱ</sup>** (al. im kolban) セントリー座第1.第2.第3星  
 (舟乗りレグージャは鳥座なりと云ふ) 番人のない物置小屋。此の小屋には椰子の實(パンダヌス)の葉を収めて雨露をしのぐ。
27. **ジゲツト・イム・ルゲツト<sup>ㄱ</sup>** (jiget im ruget). セントリー座  $\gamma, \beta$   
 一千及二千。光輝によつて此の名を得た。エボンの島にも此の名を冠する二つの小屋があると云ふ。
28. **ブブ<sup>ㄱ</sup>** (bnb.) 十字架座  
**ブブ<sup>ㄱ</sup>**は魚の名或は**ブブ**、**イン**、**エボン<sup>ㄱ</sup>**ともよぶ。

29. 「ウト・イン・ラレブラ」 (Wut in Larebra) 南冠座 (説明は第16の項に出ず)

30. 「ボーラー」 (boru) 南魚座  $\epsilon, \theta, \mu$ , 第15星.

魚筈. ジャルート島群中ボゲナゲ島を距ること遠からぬ沙洲マドレンに集て来る「アウエル」と云ふ魚を捉ふる籠で筈が設けてあつて 魚の群を籠に追ひ込む仕懸けである.

此れに擬らへて「アイリンラブラブ」からジャルートに渡る舟乗の符牒が出來た. 即ち風に立てるには「エルダーヂ, メオ (筈を下に向けよ)」と云ひ風から落すときには「エベエバジエ, メオ」(筈をひらけ)と云ふ.

31. 「リク・イン・ボーアメ」 (lik in Boame) 孔雀座  $\alpha$

「ボーアメ」の外濱. ボーアメはジャルート島群なるピンリップ島の一局地の名である.

32. 「ボエ・エン・アン・ジオクダク」 (boa. en jokak) 鶴座

「ジオクダク」と云ふのは「ボゲナージ」の半神半人で「ボエ」の釣竿のことである.

即ち「ジオクダク」の釣竿と云ふ意  $\alpha$  星は釣針  $V, \delta, \beta, \epsilon$  は釣竿.

33. 「メジャブイル」 (Mejabuil) 南魚座  $\alpha$

34. 「メジレブ」 (mejeleb) 鷲座  $\alpha, \beta, \gamma$

此の星の固有名詞であるが意味は「大眼」または「馬鹿」「不作法」に通ずる此の星は惡運を司り、日の出前に東の空に昇る季節には食物に關してよくないことが起る.

是れ故に非常用として少し許りの食物を秘藏して置くものが多く 従て誹謗爭鬭の端緒となる、此の星が中空に昇る暑い季節(六、七、八月)には澤山の食物は護らるゝから平和に復活する.

35. 「アル・イン・メジレブ」 (ar. in mejileb) 白鳥座  $\epsilon, \varphi$  co.

アルの意義は不明.

36. 「メジエトリクリク」 (mejetrikrik) 矢座  $\iota, \beta, \gamma, \delta$ ,

37. 「ジエビ」 (jabi) 海豚座  $\alpha, \beta, \gamma, \delta$ , 食物の鉢.

此の星座が夕刻正中する頃(十月の半)には通例大雨が降る. 一日小止みなく降りつゞくため火をおこすことも食物を煮炙することも出來ず冷いもの

で空腹をしのがねばならぬ、是故に<sub>L</sub>エ、ルデエク、ジエビ、エオ、ジエ、  
ルルエク<sup>†</sup>(鉢が顛覆した吾等は餓ゆ)と云ふ俚諺がある。

38. <sub>L</sub>ラク<sup>†</sup> (lak.) ベガス座  $\beta, \mu, \lambda$ ,

39. <sub>L</sub>ジエダータ<sup>†</sup>(jedada)鷲座  $\gamma, \zeta, \pi$

此の二星の名はその意味を詳かにせぬ。

40. <sub>L</sub>ロク・イン・ラゲーゲ<sup>†</sup> (lok in. lagege) カシオペヤ座  $\alpha, \beta, \gamma, \zeta, \varepsilon$

41. <sub>L</sub>ユール・エン・ラジ・エオ<sup>†</sup> (ul. en. raj. eo) アンドロメダ座  $\beta$

42. <sub>L</sub>ボブ・エン・ラジ・エオ<sup>†</sup> (bob. en. raj. eo.) 同じ。

43. <sub>L</sub>エル・モン<sup>†</sup> (elmon) 牡羊座  $\alpha, \beta, \gamma$

40より43までの星は大きな海豚の形をなすロク、イン、ラゲーゲは海豚の  
尾、エルモンは頭ユール、エン、ラジ、エオ、は脊の<sub>L</sub>ひれ<sup>†</sup>ボブ、エン、  
ラジ、エオ、は腹の<sub>L</sub>ひれ<sup>†</sup>である、エルモンの星が曉により初むる頃初め  
てパンの實が熟する。初生は酋長に献ぐる例であるから、平人は此の珍果  
を獲ても内密にして置かねばならぬ。

44. <sub>L</sub>カビーラク<sup>†</sup> (kobilak) ペルセウス座  $\alpha, \beta, \delta$

45. <sub>L</sub>リメンキユツチユー<sup>†</sup> (limenkuttu) 牡羊座第41星

46. <sub>L</sub>イズ・メジ・ロームーン<sup>†</sup> (iju. mej. romun) ペルセウス座に近き雲

イズ、メジ、は陽炎の意なるべし。

47. <sub>L</sub>ジエブロ<sup>†</sup> (jobro) 又はジエレイレー (jелеilen) 牡牛座(プレイアデス)

前記五の名(ジエブロは二つの鉢と云ふ義なり)ジエブロは年老ひて五月末  
西の空に沈む。海の底を渡つて行く間に舟は水金で一杯になつた。彼には  
<sub>L</sub>ルヂルワツト<sup>†</sup>と<sub>L</sub>ルヂリネル<sup>†</sup>と云ふ二人の妻があつて、前者は老人を嫌  
ふたが後者は甚だ誠實で、水舟の中なる、たゞ一血塊にすぎぬ老人をいた  
はつた。ルヂリネルが見て居るうちに血の塊から漸々頭、胴、手、足が出  
來てジエブロは再び蘇生し高い潮が來た時一青年となつて水舟の中から飛  
出した。

<sub>L</sub>プレイアデス<sup>†</sup>が水平線上に昇ると、舟人の間に喜びの聲がみち、<sub>L</sub>ジエブ  
ロ、エ、レレ、リアル、エ、ケエムマンマン、エオン、アエジエツト、ジ  
エオゲ、アルミジ<sup>†</sup>(昂が東からさしのぞく、水の面は油のやうになる、吾等

は幸である)と叫ぶ。

昂の昇るときに乾いた岩から不愉快な臭氣を放つ(老人の敗肉の爲と云ふ)が、決して臭いと云ふてはならぬ、其はジェブロに對する侮辱である。エ・ブイン・ナジ(好きな匂だ)と云はねばならぬ、昂が西方に沈むと恰も君主を失ふた時の様に土人の間に不安の氣が充滿する、天氣と亦人の氣に感じて悪くなり、通例雨風が多い、舟人の間には<sub>L</sub>シエレイレン、ジャゴ<sup>7</sup>(昂が死んだ)と歎聲が聞ゆる。

他の傳説によると五月初めの新月が夕方西に沈む昂と一步違ひに現はれて後日再び、東の空で邂逅する。月は空を渡り、星は南の水平線を廻つて(西に沈んだ老人は地下を通るのではなく權舟に乗つて南方の水平線を取りまた暗礁を傳うて東に行くのである)共に東に急ぐ、満月の頃には老人は水舟の中に居るが、其の後二週間目に月は水舟の中から新に生れたジェブロを取上ぐる。昂が夜あけの前に上る(頃六月の初)はことに雨、風がはげしく天氣が悪いから土人は決して夜中飛魚を取りに出ぬ、しかし此の季節が過ぎ去るとよい天氣になる。

48. <sub>L</sub>ジブジブ・エオ・アン・リゲダネル<sup>7</sup> (jibjib. eo an Ligedaner) 牡羊座  $\gamma, \delta, \epsilon$

リゲダネルの荷物(第17参照)

49. <sub>L</sub>レルリク・ラン・ネジン・ジェブロ<sup>7</sup> (lerik ran. nejin jabro) 牡牛座  $\pi$  第71星

50. <sub>L</sub>ロジラブラブ<sup>7</sup> (Lajalaprab) 牡牛座  $\alpha$

牡牛座第71星はジェブロの一人娘で<sub>L</sub>ロジラブラブ<sup>7</sup>(肥えた肚の男と云ふ意)と云ふ男に挑まれて遁げまはる。

アルデバランは娘を捉へ得ぬとて立腹して眞赤になつた。

51. <sub>L</sub>レエアトブインバル<sup>7</sup> (Loatbuinbar) オリオン座  $\gamma$

52. <sub>L</sub>ラカネバル<sup>7</sup> (lokanabar) オリオン座  $\alpha$

53. <sub>L</sub>ジェリ・エオ<sup>7</sup> (jali eo) オリオン座  $\varphi^1, \varphi^2$

レニオトブインバルは籠に物を入れる人。ラカネバル、は籠から物を取り出して食ふ人。此の星座が午前四時より東の空に昇る季節にはパンの實が熟する、前記の二人はパンの實を入れた<sub>L</sub>ジェリ<sup>7</sup>と云ふ小箆を差擔ふて行く



「レエアトブインバル」は一つも籠の果物を喰はぬ故其の顔が青白い。此れに反して「ラカネバル」は澤山喰べたから星の光がツヤやかに潤ふて見える

54. 「ジルジル イム コウジ」(jiljil im kouj) オリオン座  $\delta, \epsilon, \zeta, \eta$ , 並びに同座 cv. 第49星等.

石の斧と大きな珊瑚蟲.

$\delta, \epsilon, \zeta$  星は斧の柄,  $\delta$  は石斧  $\nu$  以上は大きな珊瑚蟲 ( $\epsilon, \nu$  第49星は其の頭部  $\eta$  第27星  $\varphi, \varphi$  第32星, 第52星等は其足で斧の柄に搦みついて居る) で石斧で殺されて居る形である.

此の星座が東に現れると「ジルジル, イラアン, メエ, カン」(斧の柄がバンの木の枝にかゝる) と云はれ, バンの木を振盪して熟果を落し, 結實季節は終を告げるから土人は之れを鹽水に貯へねばならぬ時(ロブイロ) が来る又此の星はしばしば強い嵐とをもたらす.

一九〇五年六月三十日の大風は石の斧のせいであつたと云はるゝ旋風は「ジルジルダク」と呼ばるゝ.

55. 「リゲダネル」(Ligedaer) 駁者座  $\alpha$

前記ジュムール, ジュプロ等の母である.

56. 「リベエゲエク エオ」(rihagak eo) 駁者座  $\epsilon$

57. 「ケエレイシ エオ」(Kolein eo) 駁者座  $\eta, \zeta$

58. 「イズ クオジャリブ」(iju kuojarib) 双子座  $\alpha, \beta$

此の三星座命名の意義不明.

59. 「イズ ビユロ」(iju bulo) 蟹座  $\gamma$  第44星  $\delta$

盲目者. 第44星は盲目の婦人である, 之れを  $\gamma, \delta$  なる二人が手を引く.

60. 「ロゴージノ」(logojno) } 獅子座 {  $\alpha$  第29.30.34.38

61. 「ミン カン」(min Kan) } 獅子座 { 33.37.42星

62. 「レエゲエ リジオネ」(raga lijone) アルゴ座  $\alpha$

63. 「ローラン ムエームエ コ」(loran muamua. ko) 八分儀座  $\pi, k$  ならん.

以上意義不明.

64. 「ローナ」(lona) 海蛇座.

石の名, 此の星は眞の南を示めすものと見らるゝ.

65. 「イズ・イロ・ラアン・クベエク」(iju ilo raan. Kubok) 不明.

66. 「イズ・イロ・ボク・アージャージ」(ijn ilo bok ajaj) マゼラン雲

以上の外にも尙名の付いて居るものもあらうが、教父エルランド氏が土人の舟乗「レクージャブエ」から學び得たものは是だけであつた.

しかしマーシャル島人は誰でもこんなに星宿のことに精しいと思ふのは誤である.

北斗星の様な著明な星は遍く知られて居るけれども多くの星を學ぶには相當の理解力と觀察力を要するので酋長の權威を以てしても天稟がなければ一生門外漢で終らねばならぬマーシャル島の舟長となるには是非とも星と波との知識を備へて居らねばならぬ蓋し星と波とは彼等にとりて唯一の航路指針なるが故である. 上記の星の名稱の如きも方位または位置から由來したものが少くない.

小熊座の「良き星」と名付けられたのは常に精確に北方を示す故で此の星はジャルート島の南方三十哩の所に於ても明かに視認し得る.

「天の横梁」(23)「ローナ」(64)も亦方位測定に必要な星である, 「ボアメの外濱」(31)は北方からジャルートに向ふものにとつて指導星となり「ウエトンの岩礁」(10)はジャルートからアイリンラブラブに渡る時の目標であるらしい.

## △ オリオンは爲朝 △

オリオン！  
南の空に懸つて居る  
× × × ×  
私は  
獵夫と見るよりは  
鎮西八郎の  
爲朝と呼びかけたい  
あの四邊形は  
筋骨たくましい軀だ  
馬の生皮の半圓孤は  
五人張りの強弓だ

ひきしぼつた弓を  
ヒヤデスの平家の軍勢に  
向けてゐる  
足本の兎座は  
伊豆の七島だ  
× × × ×  
南の空にオリオンが  
直立する時私は  
あの貢んじ魂の  
源の爲朝を思ふ

これは私の愚作ですがオリオンが俺は爲朝だと月のない晩に言ひました。

東京 星 狂 人